

「七つの心」の解説

一 「おはようございます」という明るい心

- ・「おはようございます」は、一日の始まりの挨拶です。
- ・これは元気にそして明るい心で言って欲しい。なぜなら、小さな声で何となく沈みがちなあいさつは、言っている本人だけでなく周りの人にも沈んだ気持ちが伝わってきてしまうからです。
- ・逆に、元気で明るい声は、それを聞いた人も元気になる、同じような明るい声で「おはよう！」と返す気持ちになります。
- ・元気な声一つで、自分も周りの人も元気になるれます。「おはよう」は、学級をそして学校を明るくする挨拶です。

二 「はい」という素直な心

- ・「はい」は返事です。返事には気持ちが入ります。「よし、やってみよう。」という時の「はい」と、いやいやながらやろうとする時の「はい」は聞いていて分かります。「はい」には気持ちが入るからです。
- ・名前を呼ばれたときの返事も、何か頼まれた時の返事も「はい」です。ここに素直な心が入ると、物事は自然にうまくいきます。なぜなら、素直でがんばってやってみようとする人には見えない力が味方してくれるからです。
- ・素直な心が入った「はい」は、自分を高めてくれます。

三 「すみません」という反省の心

- ・みんな失敗します。やってはいけないことをしてしまうこともあります。友達に迷惑をかけてしまうこともあります。そんな時は「すみません」と謝ることが大切です。反省の心が大切なのです。
- ・素直に反省している人を見ると、許してやる気持ちになります。その人が次には失敗しないように手伝ってやろうとする気持ちになります。
- ・反省する気持ちの入った「すみません」は、やり直しの出発点です。

四 「私がします」という積極的な心

- ・学級の仕事でも、家の手伝いでも、先生や家の人に「誰かしてくれないかな。」と頼まれた時には「私がします」と言えるとかっこいいです。皆から「すごいなあ」と尊敬されます。なぜなら、「私がします」は奉仕の気持ちがあるからです。「奉仕の気持ち」というのはボランティアの気持ちです。みんなのために尽くすという気持ちだから尊敬されるのです。
- ・やってできるかどうかは分かりません。でも、誰かがしなければならぬことはたくさんあります。それをやるのはみんなの役に立つことです。
- ・積極的に「やってみよう！」と言う気持ちが自分の成長につながります。「私がします」と皆が言ったら素晴らしい学校になります。素敵な日本になります。

五 「ありがとうございます」という感謝の心

- ・感謝を表す言葉「ありがとうございます」を毎日何度も何度も言うと運が向いてくる、と言われていています。それは、私たちが生んでくれ、育ててくれている親への感謝、私たちのために命を提供してくれているすべての生き物への感謝、春夏秋冬という四季や命の源である水を与えてくれている天への感謝など、この世で生きる私たちを取り巻いているすべてのものへのお礼の心が、きっと目には見えない力に通じるからだと思います。
- ・「ありがとうございます」という感謝の気持ちは、自分の心も温かくしてくれる魔法の言葉です。

六 「おかげさまで」という謙虚な心

- ・日本人には昔から「おかげさまで」という素敵な言葉があります。それは、自分が一人でやったようなことでも、実は陰で自分を支えてくれたり、応援してくれたたりした人たちがいることに感謝する謙虚な気持ちが表れた言葉です。
- ・「謙虚」ってなんでしょか。それは「つつましい様子」や「へりくだった様子」のことです。もっと簡単に言うと「偉ぶらない」ことです。
- ・うまくいっても偉ぶらない、すごいことをやっても偉ぶらない。うまくいったのは誰か陰で自分を支えてくれたからだという、偉ぶらない心をもつことは素敵な生き方です。

七 「お先にどうぞ」という譲り合いの心

- ・「お先にどうぞ」は心のゆとりの表れです。心が荒れて自分のことしか考えられない人には、この言葉は出てきません。でも、自分の周りをよく見ると、自分よりもずっと忙しく大変なのに「お先にどうぞ」と言える人がいます。心の鍛えられた人です。
- ・「お先にどうぞ」と言われると、心がほっとして思わず「ありがとうございます」という言葉が出てきます。「自分だけが・・・」ではない、相手のことを大切にする譲り合いの心です。